様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２１１７

研究課題名（和文）マレーシアにおけるエスニックな観光土産をめぐる複合的な社会関係に関する研究

研究課題名（英文）Rsearch on ethnic arts in plural societies: Case study of ethnic tourism in Malaysia

研究代表者
市川　哲（ICHIKAWA, Tetsu）

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：４０４３５５４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではエスニックな観光土産が、ただ単にゲストとしての観光客と、ホストとしての地元住民、それを仲介するミドルマンやブローカーとしての観光業者の間の関係の中だけで存在するのではなく、現地における民族集団や地域集団、国外・国外の多様な地域・国家の多様な文化的・社会的背景を持った観光客という複合的な社会関係の中で形成されることを、特に多民族国家マレーシアにおけるエスニックツーリズムおよびヘリテージツーリズムの現場を事例とすることにより明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
観光地で製作・販売される観光土産に関しては様々な分野からの研究がなされてきた。しかしながら多くの研究は観光土産を観光の場でのみ理解する姿勢を取り、観光を取り巻く多様な文化的・社会的背景を軽視する傾向があった。また多くの研究は個別地域の事例研究に拘泥し、多様な地域の事例との比較研究や、それを行うことによる自己が研究する事例の地域医的特徴を理解する姿勢が希薄であった。日本とは異なる社会的・文化的背景を持つ多民族国家マレーシアでのエスニックな観光土産を研究した本研究は、観光土産研究を他地域の事例を視野に入れたより広範囲な枠組みの中で理解する方向性を具体的に示すことができたことが学術的な意義である。

研究成果の概要（英文）：The aim of this research project is to analize how ethnic arts which is sold in ethnic tourism by conducting ethnographical field work in Malaysia. Previous studies of ethnic arts in tourism tend to regard these ethnic arts, or ethnic souvenirs are influenced by institutional host-guest relations. However these studies did not research enough diversities among local communities as host and socio-cultural diversities of guest. Therefore I had conducted ethnographical researchs in multi-ethnic societies in Malaysia and how the ethnic arts, or ethnic souvenirs are created in plural communities.

研究分野：観光人類学

キーワード：観光研究　文化人類学　観光土産　エスニックツーリズム　エスニックアート　ヘリテージツーリズム　先住民　移民

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

エスニックな観光土産を対象とする観光学的な先行研究の多くは、エスニックな観光土産が持つ特徴を、観光地を訪問する外部のゲストと、観光地でゲストを受け入れるホストの二者関係の中でのみ取り扱う傾向があった。しかしながら本研究者はこれまでマレーシアを始めとする東南アジア地域やパプアニューギニアを始めとするオセアニア地域で民族誌的なフィールドワークを行う経験の中から、このような従来の観光学的枠組みは、観光の現場の多様な性格を理解するにはあまりに単純であり、観光土産研究の枠組みそのものを再考する必要を感じるようになった。そして、そのためにはエスニックな観光土産が観光客向けに製作され販売される現場のみを調査の対象とするのではなく、観光土産を取り巻く多民族状況や地域間関係、国内観光客と外国人観光客といった多様なゲストの存在、現地の親族関係や社会活動、宗教儀礼、生業活動といった多様な社会的脈絡の中に位置づけて捉えることを目指す。それにより、従来の観光土産を対象とした研究を、より複合的かつ重層的な脈絡の中に位置づけて理解する方向性を検討する必要性を意識するようになった。

２．研究の目的

以上の問題意識から、本研究では東南アジアの多民族国家マレーシアを事例として選択した。そして特にペナン州およびサラワク州を調査地とし、これらの地域で販売されるエスニックな観光土産の生産・流通・販売・消費の多元的な脈絡を現地調査に基づく実証的な視点から調査・研究した。

観光研究の中でも土産物研究は主要な研究分野の一つであり続けた。土産物の生産や販売、購入は観光に伴う主要な行動であり、また観光地における住民や旅行関連企業、鉄道業、宿泊業等が新たな観光土産を生み出すという現象が、多くの研究者の注目を引き付けてきた（e.g. 鈴木 2013）。これらの研究では歴史学や民俗学の成果とも共同することにより、観光学における土産物研究という領域を確立してきたといえる。

また本研究が取り上げるエスニックな観光土産に関する研究では、いわゆるエスニック・ツーリズム研究（Ethnic Tourism Studies）や先住民観光研究（Indigenous Tourism Studies）の一環として、主に観光人類学や観光社会学の分野で取り扱われることが多かった。これらの研究では、観光の現場におけるホストとゲストの相互交渉により新たに生まれる「観光文化」として土産物が生み出される現象、観光地の住民が観光客の側のオリエンタリズム的なまなざしを内面化する形でエスニックな土産物を作り出す現象、「南国」や「楽園」「エキゾチック」といった漠然としたイメージを表象するためにゲストの側が必ずしも自己の居住地の文化とは関係がない雑多な要素を混淆させた土産物を作り上げ販売する現象、観光地の住民が自己の文化的アイデンティティを土産物の形で表し販売することによるアイデンティティ・ポリティクスの側面、一地域の特徴的な文化要素が土産物としてより広い地域を代表するようになるという現象、絵葉書やポスター、木彫りや壁掛け等の土産物に描かれるモチーフに存在するイメージや権力関係の存在、といった様々な分野が注目されてきた（e.g. 橋本 2011, Cave et al 2013, Cohen 2000, Hitchcock 2009）。

これらの研究は、土産物という観光行動に伴う物品を、単なる商品の売買という脈絡で分析するのではなく、土産物が置かれる社会的な脈絡に注目することにより、ホストとゲストの動態的な関係や不均衡な権力関係、イメージの流用や内面化といった多様な現象に分析の視点を向ける必要性を喚起し、観光研究の領域を広げるという貢献をしたといえる。

しかしながら、上述したエスニックな観光土産を対象とした先行研究の多くは、観光地に居住する当事者であるゲストの内部における多様性や、国内観光客と国外観光客、さらには観光客内部に存在する多様な出身地といったゲスト側の多様性、当事者が観光土産をどのように認識し、どのような契機により作製し、販売し、場合によっては彼ら彼女らも使用するのか、という、現地における多元的かつ多層的なレベルの現実を軽視する傾向があった。また例えば観光地のホスト側の多様性に注意を喚起する研究でも、現地のジェンダーや世帯収入、コミュニティ内部のリーダーシップといった側面に注目する先行研究はある一方で、観光の現場を超えた親族関係や民族間系、儀礼活動、観光以外の生業といった多様な要素を視野に入れる視点が希薄であった。

３．研究の方法

そのため本研究は多民族国家マレーシアの代表的な観光地として、2008 年に UNESCO 世界文化遺産として登録されたペナン島ジョージタウンと、少数民族の生活文化が観光資源となる典型的なエスニック・ツーリズムの場であるボルネオ島サラワク州を調査地として選択した。これらの地域では、いわゆるヘリテージや少数民族文化を「見る」観光が行われるだけでなく、エスニックなイメージをまとった各種の観光土産が販売されているという特色を持つ。

例えば UNESCO 世界文化遺産に登録されたペナン州のジョージタウン地域は典型的な多民族集住地域であり、世界遺産認定後、急速に観光化が進み、新たな観光土産も作り出されることとなったが、そこで販売されるエスニックな観光土産はマレーシア国内の観光客向けと、国外から来

る観光客向けでは明らかに異なる商品が販売されていたことが現地調査から明らかになった。さらに国内観光客向けにも華人系観光客に対しては植民地期のノスタルジーが協調される一方で、非華人系観光客には漠然とした南国イメージが協調されるという特徴が存在した。

またサラワク州では先住諸民族の生活や文化を観光資源としたエスニック・ツーリズムが主要な観光形態となっており、それらの場では先住民のエスニックな観光土産も販売されていた。サラワク州のエスニックな観光土産はエスニック・ツーリズムでゲストが訪問する観光化した先住民居住地のみならず、そこに至るまでの都市部にも存在した。だがこれらのエスニックな観光土産はサラワク域外の観光客が購入するだけでなく、在地の住民が自己の婚姻儀礼や政治儀礼の際に自らが装うために購入したりしていることが明らかになった。例えば婚姻儀礼の際には、キリスト教化した先住民族は午前中はキリスト教会でのキリスト教式の結婚式を行い、午後にはホテルのロビーを借り切り、エスニックな衣装をまとった新郎新婦と親族・姻族が、観光土産店で購入した「観光土産」を用いた婚姻儀礼をおこなったりしていた。

このような現象は、ホストとゲストの二者関係により新たな観光文化が誕生するという観光人類学や観光社会学の従来の枠組みでは分析しきれないことが明らかである。そのため本研究では、上述した地域にて、エスニックな観光土産の制作者や販売者を対象とした調査を行うのみならず、それらの観光土産を購入し使用する人々を対象とした現地調査を行った。さらに、これらの実践を過度に観光の脈絡に位置づけて理解することを避けるために、観光以外の生業や社会活動、商業活動、芸術活動も視野に入れた文化人類学的な不イールドワークを実施した。

４．研究成果

以上の現地調査に基づく調査研究を行うことにより、本研究は研究期間内に、マレーシアにおける多民族混住地域および少数民族居住地における、エスニックな手工芸品が、現地の人々にいかにして認識され、作成され、国内旅行者及び国外からの旅行者に販売され、更には現地の人々によっても使用されるか、そしてそれがいかにして現地の生活文化や生業の中に埋め込まれているのか、という問題を、多様な民族関係や観光以外の生業との関係の中に位置づけて理解することにより、実証的なレベルから明らかにしたという成果を上げることができた。

観光研究の中でも特に観光人類学や観光社会学の分野では、観光地を訪れるゲストとそれを様々な形で迎え入れるホストの相互交渉に注目することにより、観光の場における動態的な現象を明らかにしてきた。しかしながらこれらの研究は分析の対象をホストとゲストの二者間に限定することにより、観光の現場における多様な現実を十分に記述しきれないという欠点があった。さらにこれらの研究やゲストの間における多様な主体の存在や、それら主体間の相互交渉、観光客を対象とした以外のホスト側の日常的な生活実践を軽視することにより、観光という現象を過度に強調した分析を行う傾向があった。

しかしながら、上述したように、本研究では特定の観光の現場における多様な主体の存在や、その主体間の相互交渉、現地の住民による観光客を対象とした以外の諸実戦等、これまでの観光研究で等閑視されてきた要素を視野に入れることにより、観光土産が取り扱われる状態を、より包括的に理解することが可能となった。これらの成果に関しては研究期間にも文章化および研究発表の形で公表してきた。現在、本格的な学術論文を執筆中であり、最終的な成果報告を準備している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 市川哲	４．巻 13
２．論文標題 地域資源と向き合うツーリズム：武将隊からやっとかめ文化祭まで	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人間文化研究所年報	６．最初と最後の頁 55-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 市川哲	４．巻 13
２．論文標題 商店街拠点のご当地アイドルが県公認のアイドルになるまで	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人間文化研究年報	６．最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 市川哲	４．巻 28
２．論文標題 芸術活動、教育、観光業：マレーシア、サラワク州のある手工芸品制作者のライフヒストリー	５．発行年 2017年
３．雑誌名 人間文化研究	６．最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 榎木美樹・市川哲	４．巻 13
２．論文標題 2017年度「地域づくり」セミナー開催報告	５．発行年 2018年
３．雑誌名 人間文化研究年報	６．最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 ICHIKAWA, Tetsu
２．発表標題 Local Customers in Ethnic Souvenir Shops: Production and Consumption of Ethnic Handicrafts in Sarawak, Malaysia
３．学会等名 Symposium of The International Studies Department of De La Salle University and Nagoya City University（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考